

〈研究ノート〉

新約聖書「ヨハネの第三の手紙」にみられる 裏返し構造

大喜多 紀明

1. はじめに

従来、裏返し構造は、異郷訪問譚にみとめられる構造的な特徴であると考えられてきた¹のだが、近年、いくつかのアイヌ口承テキスト²や聖書テキスト³においては、異郷訪問譚とはいえないにもかかわらず裏返し構造がみとめられる事例がみいだされた。かかる特徴がみとめられる理由については、アイヌ口承および聖書テキストが持つ特性に起因することによるという仮説⁴⁵が示されている。本稿の目的は、聖書テキストにおける、異郷訪問譚とはいえないにもかかわらず裏返し構造がみいだされる事例を資料として提示し、対称性仮説の蓋然性の検証に資するところにある。

聖書テキストを題材とした従前の研究では、①創世記冒頭のいくつかの物語⁶、②マタイによる福音書冒頭のいくつかの物語⁷、③ヤコブの手紙全体⁸、④ピレモンへの手紙全体⁹、⑤ヨハネによる福音書の七つのしるし¹⁰、⑥ヨハネの第二の手紙全体¹¹において、異郷訪問譚ではないにもかかわらず裏返し構造がみとめられた¹²。本稿では、現在まで当該検証がおこなわれていない聖書テキストであるヨハネの第三の手紙を題材として、前述の一連の先行研究と同様の検証をおこなうことにする。

その際、まずは、当該テキストが異郷訪問譚といえるかの検討をおこなう。そのうえで、当該テキストが裏返し構造といえるかの検討をおこなうことにする。

なお、新約聖書には合計 27 の巻が収納されている。本稿でテキストとす

るヨハネの第三の手紙は、新約聖書に収納された巻のなかの一つである。

2. テキスト

本稿では、口語訳聖書¹³に掲載されたヨハネの第三の手紙をテキストとする。以下は、ヨハネの第三の手紙の全文である。なお、引用文中の記号・アルファベットは筆者によるものである。

—テキスト

[A/]長老のわたしから、真実に愛している親愛なるガイオへ。[A][B/]愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。[B][C/]兄弟たちがきて、あなたが真理に生きていることを、あかししてくれたので、ひじょうに喜んでいる。事実、あなたは真理のうちを歩いているのである。わたしの子供たちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない。愛する者よ。あなたが、兄弟たち、しかも旅先にある者につくしていることは、みな真実なわざである。彼らは、諸教会で、あなたの愛についてあかしをした。それらの人々を、神のみこころにかなうように送り出してくれたら、それは願わしいことである。[C][D/]彼らは、御名のために旅立った者であって、異邦人からは何も受けていない。それだから、わたしたちは、真理のための同労者となるように、こういう人々を助けねばならない。[D][E/]わたしは少しばかり教会に書きおくっておいたが、みんなのかしらになりたがっているデオテレペスが、わたしたちを受けいれてくれない。だから、わたしがそちらへ行った時、彼のしわざを指摘しようと思う。彼は口ぎたなくわたしたちをののしり、そればかりか、兄弟たちを受けいれようともせず、受けいれようとする人たちを妨げて、教会から追い出している。[E][F/]愛する者よ。悪にならわなさい、善にならなさい。善を行う者は神から出た者であり、悪を行う者は神を見たことのない者である。デメテリオについては、あらゆる人も、また真理そのものも、証明している。わたしたちも証明している。そして、あなたが知っているとおりに、わたしたちの証明は真実である。[F][G/]あなたに書きおくりたいことはたくさんあるが、墨と筆とで書くことはすまい。

すぐにでもあなたに会って、直接はなし合いたいものである。〔/G〕〔H/〕
 平安が、あなたにあるように。友人たちから、あなたによろしく。友人
 たちひとりびとりに、よろしく。〔/H〕

3. 裏返し構造

1節で示した先行論文では、以下に示すAとBの双方の特徴を有する構造を「裏返し構造」と呼んだ。

- A：物語の「前半」部分に配置された要素に対して、物語の「後半」に相当する要素が、「前半」の「否定」・「対立」もしくは「対照」としての関連性を持って出現する¹⁴。
- B：物語の「後半」に配置された要素は、「前半」の対応する要素の配列順序とは逆の順番で出現する¹⁵。

本稿においても、特徴Aと特徴Bの双方の特徴を有する構造を「裏返し構造」と呼ぶことにする。

なお、上述した一連の先行論文では、裏返し構造に関する判別をおこなう際に、テキスト全体をいくつかの断章に区分した。そのうえで、当該区分どうしの関係性を分析し、これを特徴Aおよび特徴Bと照合した。その際、区分に基づく図式を作成した。本稿における判別も、先行論文と同様におこなうことにする。

4. ヨハネの第三の手紙は異郷訪問譚といえるか

本節では、テキストが異郷訪問譚といえるか否かの検証をする。一般的には、異郷訪問譚とは、主人公が主人公にとっての異郷を訪問する形式の物語のことをいう。勝俣は異郷訪問譚の特徴を次のように述べた¹⁶。

異郷訪問譚とは、現世の地上世界、神話であれば葦原中国から、それ以外の異郷を訪れる話である。訪問者は神か人間であり、異郷へ行くためには、特殊な手段・方法が必要とされる。また、多くの場合、選ばれた少数者のみしか異郷を訪れることは出来ない。

この記述に基づき、本稿では、以下の①～④のすべての特徴にあてはまる場合、これを異郷訪問譚と定義する。

- ①訪問者が訪問者にとっての異郷を訪問する形式の物語である¹⁷。
- ②訪問者は神か人間である¹⁸。
- ③訪問者は、特殊な方法・手段によって異郷を訪問する¹⁹。
- ④選ばれた少数者しか異郷を訪問できない²⁰。

ここで、本稿では、特徴①～特徴④のすべての特徴に合致する場合、これを異郷訪問譚と呼ぶ。

テキストを上述の特徴①～特徴④に照合した場合、以下のようになる。

◆特徴①について

テキストの主人公は、手紙を発信した「長老のわたし」である。だが、本テキストはあくまでも、主人公が「ガイオ」に向けて差し出した手紙であり、実際に主人公が異郷を訪問した記事はテキストには描かれていない。したがって、主人公は異郷への訪問者ではないため、テキストは特徴①に合致しない。

◆特徴②について

主人公は人間であるという点は合致するものの、そもそも主人公は異郷への訪問者ではないので、テキストは特徴②に合致しない。

◆特徴③について

主人公はそもそも異郷への訪問者ではないため、当然に、特殊な方法・手段による異郷への訪問もない。よって、特徴③には合致しない。

◆特徴④について

主人公は異郷に訪問しないので、異郷へと訪問できる選ばれた少数者ではない。よって、テキストは特徴④に合致しない。

以上より、テキストは、特徴①～特徴④のすべてに合致していない。したがっ

て、テキストは、異郷訪問譚とはいえない²¹。

5. 構造

テキストは、筆者が付した記号・アルファベットに区分された断章により構成されている。本節では、まず、区分に基づいた筆者による図式を示す。

<u>A. 挨拶</u> 差出：わたし 宛先：ガイオ ↓	⇔	<u>H. 挨拶</u> 差出：友人たち 宛先：ガイオたち ↑
<u>B. 愛情</u> 間接的 ↓	⇔	<u>G. 愛情</u> 直接的 ↑
<u>C. 真実性</u> あなた ↓	⇔	<u>F. 真実性</u> デメテリオ ↑
<u>D. 対応</u> 受容 ↓	⇔	<u>E. 対応</u> 拒絶 →

続いて、かかる図式で示した区分の対応である A と H, B と G, C と F, D と E の関係性について説明する。

◆ A と H

A と H は、共に、「挨拶」がテーマである。A では、当該手紙が、差出人である「わたし」が宛先人である「ガイオ」に書かれたことが述べられている。対し、H では、差出人は「わたし」ではなく、「わたし」以外の「わたし」の「友人たち」からになっている。また、宛先人は、「あなた」（ガイオ）に言及しているのだが、それ以外の「友人たちひとりびとり」にその範囲を拡大させている。つまり、A では、「わたし」と「ガイオ」による私的な手紙であることが示されているのだが、H では、「わたし」と「友人たち」から「あなた」と「友人たちひとりびとり」へと広く公開された手紙であることが示

されている。このように、AとHに示された手紙の開示範囲は、私的と公開という対照的なものである。

手紙の開示範囲

A	わたしとガイオ
H	わたし以外とガイオ以外に公開

◆ BとG

BとGは、共に「愛情」をテーマとしている。Bでは、「わたし」がガイオに対して健やかであることを「祈っている」という、意思表示が書かれている。ここで、祈りという行為は、健やかであることを願う相手に直接対面しておこなう行為ではなく、たとえば神のような超越的な存在²²に対して願いをかけるものである。したがって、かかる意思表示は、「わたし」がガイオに直接的に対面することを願望するものではない。対し、Gには、「すぐにでもあなたに会って、直接はなし合いたい」という「わたし」による意思表示が書かれている。これは、神を介在せず、直接的な対面を「わたし」が願望していることを意味している。以上のように、BとGは、共に、差出人から宛先人への「愛情」が表現されているものの、Bは、神を介在とした間接的なものであり、Gは、直接的なものであるため、かかる点は対照的である。

対面方法

B	間接的
G	直接的

◆ CとF

CとFは、共に、「真実性」をテーマとしている。Cには、「あなた」が真実であることが書かれている。また、その真実性を、「兄弟たち」と「わたし」が証言している。それに対し、Fでは、「デメテリオ」が真実であることが述べられており、かかる真実性を「あらゆる人」と「わたしたち」が証言している。つまり、Cには「あなた」の真実性が、Fには「デメテリオ」の真実性が、多くの人たちの証言に基づいて述べられている。ここで、「あなた」は、当該手紙の宛先の主たる人物であるのに対し、「デメテリオ」という人

物の詳細は不明である²³。少なくとも、真実性を証言された人物が「あなた」（ガイオ）である点と「あなた」（ガイオ）以外の人物である点については対照的であるといえる。

	真実な人
C	ガイオ
F	ガイオ以外

◆ D と E

D と E のテーマは、共に、「対応」である。D では、「わたしたち」が、真実な人を助けなければならないことが書かれている。一方、E には、「デオテレペス」が、「わたしたち」を受け入れないことが述べられている。

	主体	対象	対応
D	わたしたち	真実な人	受容
E	デオテレペス	わたしたち	拒絶

ここで、D の場合は、「わたしたち」が「真実な人」を評価する主体であるのに対し、E では、「わたしたち」は「デオテレペス」により評価される対象である。また、D での対応は「受容」であるが、E での対応は「拒絶」である。以上の点は対照的である。

以上の区分どうしの関係性にに基づき、これを特徴 A および特徴 B と照合する。まず、A と H, B と G, C と F, D と E は、それぞれ対応関係にある。かつ、その関係は対照的である。かかる点は特徴 A と合致している。続いて、前半要素の配列は A → B → C → D という順序である。対し、後半要素は E → F → G → H である。つまり、かかる配列順序は前半要素と後半要素では逆転している。この点は、特徴 B と合致している。以上より、図式は、特徴 A と特徴 B の双方に合致しているため、テキストは裏返し構造である。

6. おわりに

本稿では、対称性仮説の蓋然性の検証に資することを目的に、新約聖書に収納されたヨハネの第三の手紙の構造分析を、裏返し構造をあてはめる観点

からおこなった。なお、本稿の前提に基づけば、ヨハネの第三の手紙は異郷訪問譚ではない。

本稿での検証の結果、ヨハネの第三の手紙は裏返し構造であることがわかった。したがって、本稿がもたらした知見は、対称性仮説の蓋然性が高いことを支持するものである。ただし、本稿を含めても、聖書全体の分量に比すれば、未だ部分的な知見に過ぎない。筆者としては、聖書の残りの箇所についても同様の調査をおこなうつもりである。

注

- 1 大林太良, 1979, 「異郷訪問譚の構造」『口承文芸研究』, (2), p. 1-9, 口承文芸学会.
- 2 大喜多紀明, 2016, 「アイヌ口承テキストに見られる裏返し構造: 異郷訪問譚によらない事例」『北海道言語文化研究』, (14), p.45-72, 北海道言語研究会.
- 3 後述(6)～(11).
- 4 大喜多紀明, 2017, 「聖書「創世記」冒頭の5つの物語の構造: 異郷訪問譚によらない裏返し構造の事例」『北海道言語文化研究』, (15), p. 195-216, 北海道言語研究会.
- 5 本稿では、かかる仮説を「対称性仮説」と呼ぶ.
- 6 大喜多(2017)では、「失樂園」物語(創世記2章4節～3章24節), 「カインによるアベル殺害」物語(創世記4章1節～4章16節), 「バベルの塔」物語(創世記11章1節～11章9節)において、異郷訪問譚といえない形式であり、かつ、裏返し構造がみとめられることが述べられている.
- 7 大喜多紀明, 2018, 「新約聖書「マタイによる福音書」の冒頭に配置された5つの物語の構造: 「対称性仮説」の蓋然性」『北海道言語文化研究』, (16), p. 25-48, 北海道言語研究会. では、「イエス誕生」物語(マタイによる福音書1章18節～1章25節), 「ヨハネによる洗礼」物語(マタイによる福音書3章1節～3章17節), 「イエスのガリラヤ宣教」物語(マタイによる福音書4章12節～4章25節)において、異郷訪問譚とはいえない形式でありながら裏返し構造である知見が示されている.
- 8 大喜多紀明, 2019, 「新約聖書「ヤコブの手紙」にみとめられる裏返し構造: 「物語」とはいえないテキストの事例」『人間生活文化研究』, (29) 15-21, 大妻女子大学人間生活研究所.
- 9 大喜多紀明, 2019, 「新約聖書に収納された「ピレモンへの手紙」にみられる裏返し構造」『人間生活文化研究』, (29) 293-298, 大妻女子大学人間生活研究所.
- 10 大喜多紀明, 2019 「ヨハネによる福音書の構造分析: 七つの「しるし」にみられる裏返し構造」『人間生活文化研究』, (29) 768-773, 大妻女子大学人間生活研究所.
- 11 大喜多紀明, 「新約聖書に収納された「ヨハネの第二の手紙」の構造: 裏返し構造をあてはめる観点からの分析」『人間生活文化研究』, 2020, (30) 308-311, 大妻女

子大学人間生活研究所。

- 12 異郷訪問譚といえるか否かにかかわらないテキストに対する検討は、大喜多紀明，2018，「ルカによる福音書」全体における裏返し構造『人間生活文化研究』，(28) 75-81，大妻女子大学人間生活研究所。などの研究がある。
- 13 日本聖書協会，1989，『聖書』，日本聖書協会。
- 14 本稿ではこれを「特徴 A」と呼ぶ。
- 15 本稿ではこれを「特徴 B」と呼ぶ。
- 16 勝俣隆，2009，『異郷訪問譚・来訪譚の研究—上代日本文学編』，和泉書院。
- 17 本稿ではこれを「特徴①」と呼ぶ。
- 18 本稿ではこれを「特徴②」と呼ぶ。
- 19 本稿ではこれを「特徴③」と呼ぶ。
- 20 本稿ではこれを「特徴④」と呼ぶ。
- 21 このことは本稿の前提である。
- 22 本稿ではこれを「神」と呼ぶ。
- 23 デメテリオについて，たとえば，城山キリスト教会の関根弘興牧師は，2016年11月6日の「ヨハネの手紙連続説教16・幸いを祈る」で，「この人がどのような人物なのか詳細はわかりませんが，この手紙をガイオのもとに届けるためにヨハネが遣わした人ではないかと言われています。また，巡回伝道者の一人でもあったのではないかと言われています。」と述べている。城山キリスト教会，“城山キリスト教会 礼拝説教 二〇一六年一月六日 関根弘興牧師 第三ヨハネ一節～一五節 ヨハネの手紙連続説教16（最終回）「幸いを祈る」”。城山キリスト教会。 <https://jly.jp/message/161106.html>，（参照 2020-4-4）。